

だいきこく通信 第十六号「冬の号」

たいまつ

日頃より当神社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。社報「だいきこく通信」第十六号をお届けします。今回は、神社の建築に関わることをご紹介します。

今年は何年にもなく暑さが長く続きました。それがある時期、気温がすとんと下がり、秋らしい陽気を楽しみむ間もなく寒い季節を迎えました。今年の冬は寒さが厳しいと言われています。くれぐれも体調に気をつけてお過ごしください。

今年も残りわずかとなりました。気候も世の中も何かと落ち着きませんが、来年が皆様にとりまして良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

大國神社 宮司 大島資生



平成二十六年新年祈禱時間のご案内

- 一月一日(水) 午前零時～二時 午前六時～午後五時
- 一月二日(木) 午前八時～午後五時
- 三日(金) 午前八時～午後五時
- 一月四日(土) 午前八時～午後三時
- 五日(日・初子) 午前八時～午後三時
- 一月六日(月) 午前八時～正午
- 一月七日(火) 午前八時～午後三時

※厄年のお祓いも行ないます。(災難除けのお守りを授与)

★数え年とは、満年齢に誕生日前には二才、誕生日後には一才を加えた年です。

平成26年の厄年(数え年)

| | 前厄 | 本厄 | 後厄 |
|------------------|--------------------------|------------------------|-------------------------|
| 男 の 厄 年 | 24才 平成3年生 ひつじ | 25才 平成2年生 うま | 26才 平成元年生 み(へび) |
| | 41才 昭和49年生 とら | 42才 昭和48年生 うし | 43才 昭和47年生 ね(ねずみ) |
| | 60才 昭和30年生 ひつじ | 61才 昭和29年生 うま | 62才 昭和28年生 み(へび) |
| 女 の 厄 年 | 18才 平成9年生 うし | 19才 平成8年生 ね(ねずみ) | 20才 平成7年生 み(いのしし) |
| | 32才 昭和58年生 み(いのしし) | 33才 昭和57年生 いぬ | 34才 昭和56年生 とり |
| | 36才 昭和54年生 ひつじ | 37才 昭和53年生 うま | 38才 昭和52年生 み(へび) |

近年は、女61才の還暦も男女共通で厄年とする場合があります。お祓いの申し込みは

お宮あれこれ「玉垣」「千木」「鯉木」

神社にお参りする際に目に付くものとして、神社の周りを囲む「玉垣」、社殿の屋根にある「千木」「鯉木」といった構築物があります。今回はこの三つについて簡単に紹介いたします。



神社の境内の周りには石製の柵が巡らされていることがよくあります。この柵のことを「玉垣」と呼びます。

「玉」は「玉葛」たまかずら「玉串」などにみられるのと同じく、「立派な」「美しい」といった意味を表わし、特に奈良時代に神事や高貴なものごとを讃える表現（美称）として使われていました。玉垣は、

古い時代には樹木を巡らせる柴垣が一般的だったようです。もともとは、神聖な領域と世俗の領域を分ける結界として設けられたものでした。神聖で尊い場所を示すところから、「玉」とい

う美称が用いられたのでしよう。

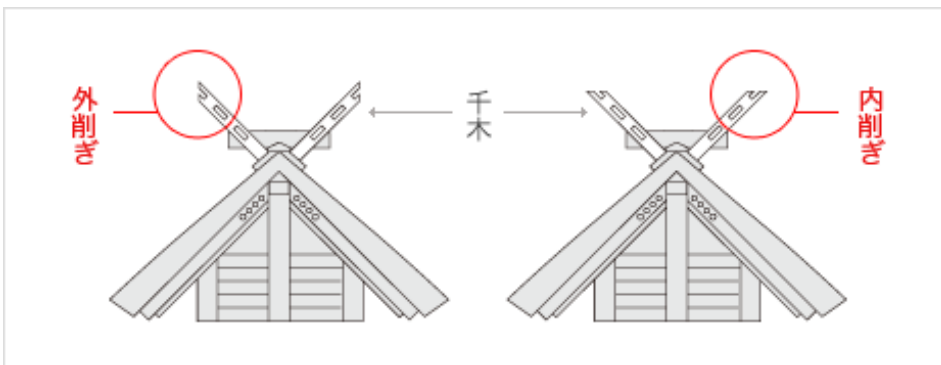
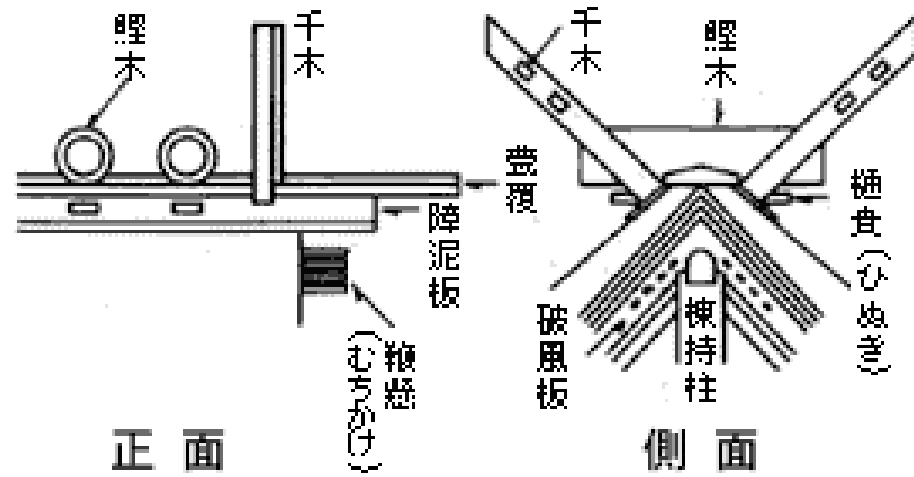
玉垣の中に入ると、社殿が見えてきます。では次に社殿の屋根にある「千木」ちぎと「鯉木」かっおぎを見てみましょう。屋根の両端に「V」の形に伸びている二本の板木を「千木」と言います。また、屋根の上に水平に並べておいてある丸太状の木が「鯉木」です。

建物の屋根の端に山形につけられる板を「破風」はふと言います。

屋根をかける際、昔はこの破風板を斜めに交差させた先端をそのままにし、切りおとしました。千木は、このような古代の建築様式の名残とされています。破風板がそのまま千木になっているのではなく、別に千木を作って屋根につけるものを「置き千木」と言います。現在、ほとんどの神社の千木は置き千木です。



鯉木はもともと、萱や桧皮で葺いた屋根を押さえるために置かれた重しでした。鯉節に形が似ているところからこういう名前がついたとされています。「勝男木」「堅魚木」とも書かれます。本数は神社によって異なります。千木も鯉木も、古代の豪族の住居に用いられていました。古代建築の特徴が現在の神社建築の中に保存されている例と申せましょう。



千木の先端を水平に切ったものを「内削ぎ」、垂直に切ったものを「外削ぎ」といいます。千木が内削ぎで鯉木が偶数の場合、女性神、外削ぎで奇数の場合は男性神を祀るともいわれますが、必ずしもそうではないようです。



ちなみに当神社では、

玉垣の山手線沿い部分は既存の物をそのまま利用、本郷通り沿いは境内整備にあわせて新たに整えました。2ページの写真は新設部分です。また、上の写真の通り、本殿の千木は外削ぎ、五本の鯉木を置いております。

なお、千木のすぐ下、鬼瓦に打ち出の小槌をあしらっております。ご参拝の折、ご覧いただければ幸いです。



祭礼・祈禱などのご案内

○次回甲子祭

平成二十六年二月二十二日（土）

（一）祈禱時間 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日（午前六時～正午まで）

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは以下の電話番号にお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちはこちらからご連絡いたします。

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行っております。祈禱日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

○三三三九一八七九三〇

お急ぎの場合は携帯電話へ ↓ ○八〇一九八七七八七二六

メール daikokujinja@gmail.com

次号発行予定

「だいきく通信第十六号」、いかがでしたか。次号「春の号」は、平成二十六年二月二十二日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第十六号 平成二十五年十二月二十四日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇〇〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一十一

<http://www.daikokujinja.org>

